▼ ファームウエア アップデート手順書

ＦＴＤＸ９０００Ｄタイプ用

本製品をいつも最高の状態でご愛用頂くために、最新のファームウエアにアップデートされる事をお薦め致します。ＰＥＰ９０００作業後の本製品は、一定の条件を満たすパーソナルコンピュータ※1 と市販のシリアルケーブル※2 をご用意頂ければ、お客様ご自身でファームウエアをアップデートさせることが可能となっています。

（お客様での作業は、本手順書を最後までよくお読みになり、作業の流れをご理解頂いた上で、ご自身の責任において行って下さい。正しく作業が出来なかった場合の不具合につきましては、弊社にて有償で保守を承ります。）

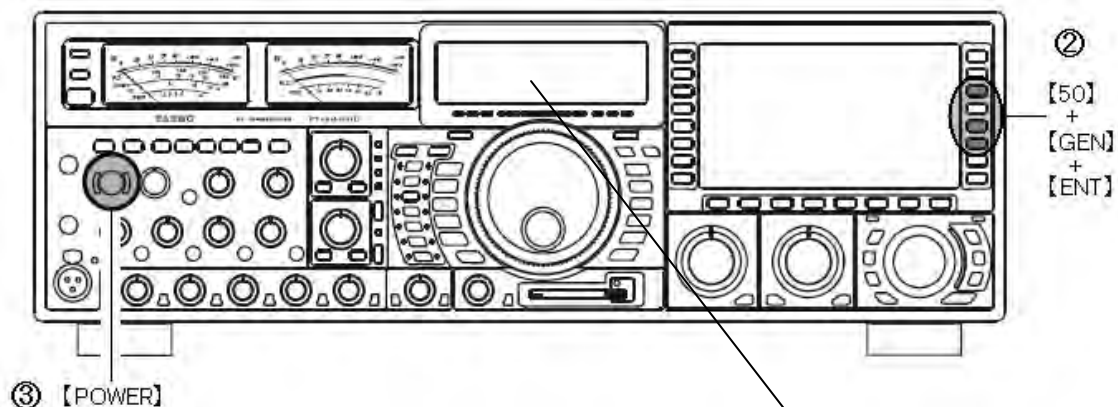
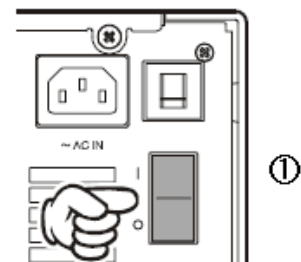
１．　ファームウエアのバージョンを確認します。

■ **ファームウエアのバージョンを表示させます。**

手順①. 背面にある【主電源】スイッチを入れます。

（ このときは未だ前面側の【ＰＯＷＥＲ】スイッチは入れないで下さい。 ）

手順②. 【５０】、【ＧＥＮ】、【ＥＮＴ】３つのキー位置を確認します。

手順③. 手順②のキーを押しながら前面の【ＰＯＷＥＲ】スイッチを入れます。

■ **この手順によりファームウエアのバージョンが一定時間だけ表示します。**

２．　最新ファームウエアのバージョンを ＷＥＢ で確認します。

■ **当社のホームページよりファームウエアの最新情報を確認して、上記表示よりも数字が更新されていたら、続く手順によりアップデートすることをお薦めします。**

■　**ＦＴＤＸ９０００Ｄは、以下３項目それぞれに専用のファームウエアがありますので、必ず同時期の物がアップデートされているかをご確認下さい。**

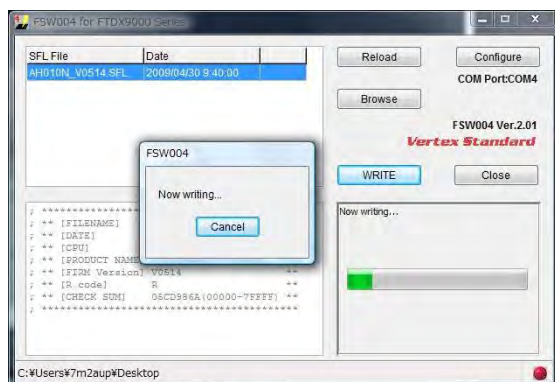
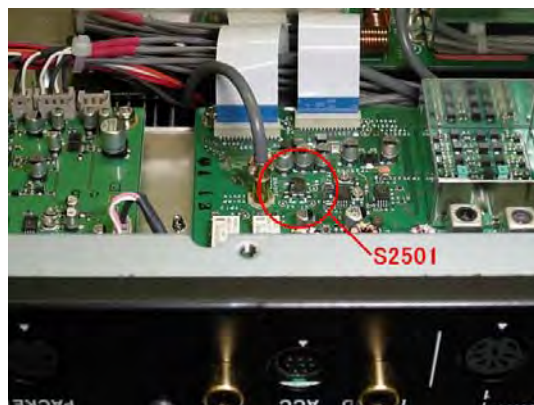
①.　メインファームウエア（システム本体のファームウエアです。）

②.　ＤＳＰファームウエア（メイン送受信機と、サブ受信機、それぞれのＤＳＰに関するファームウエアです。）

③.　ＤＭＵファームウエア（ＴＦＴ表示部のファームウエアです。製造時期によりバージョンは２種類※3です。）

３.　ファームウエアが更新されていたら次の手順でアップデートします。

①.　メインファームウエアの更新

- 前面パネルの【ＰＯＷＥＲ】スイッチ、続いて背面の【主電源】スイッチを切り、電源ケーブルを含むすべての接続ケーブルを一旦抜き去ります。
- 下図を参考に、本体ケース底面を開け、ＴＸunit にある、ファームウエア更新用切替スイッチＳ２５０１の位置を確認し、同時にこのスイッチがＯＦＦとなっていることも確認しておきます。
- 予め用意されたパーソナルコンピューター（以降ＰＣ※1と表記）、本体背面ＣＡＴ端子間を、用意されたシリアルケーブル※2で接続し、さらに本体には電源ケーブルのみ接続し、接続したＰＣ※1を起動します。（※1,2 の詳細は、本説明書の“５.用意するものについて”をご参照下さい。）
- ＰＣ※1の転送ソフト FSW004.exe を起動し、続いてファームウエア更新用切替スイッチＳ２５０１のノブをＯＮの位置にスライドします。（切替スイッチは頻繁な操作に耐えるものでは無いため、無理な力を加えないよう取扱にはご注意下さい。）

- 以上の準備が完了したら、本機背面の【主電源】スイッチのみをＯＮとして、転送ソフト FSW004.exe 上で同時にダウンロードした最新のファーム・ファイルを選択し、［WRITE］をクリック。本機に転送します。（実行が正常に出来ない場合は、本説明書巻末の“６.トラブルシュート”をご参照

下さい。）

・　転送時間は、ご用意頂いたＰＣ※1の環境次第で大きく差があります。転送が開始されると、転送ソフト内にある転送状況のバーグラフがゆっくりと伸び始めますので、転送中は絶対にそれぞれの機材の電源が切れないようご注意下さい。

・　転送が完了したら本体背面の電源スイッチを切り、シリアルケーブル※2を本体から外して、Ｓ２５０１を元のＯＦＦ位置に戻します。

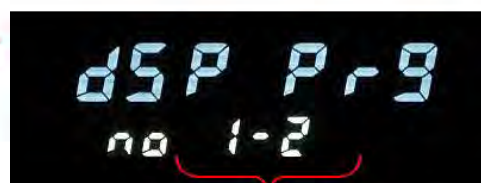
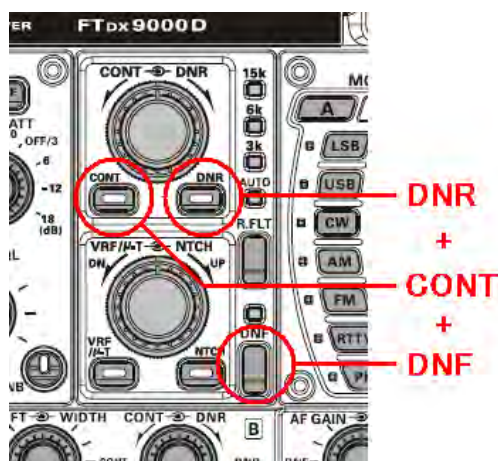
・　再び本機背面の【主電源】スイッチをＯＮとした後、前面パネルの[ＦＡＳＴ]キーと[ＬＯＣＫ]キーを同時に押しながら本機前面パネルの【ＰＯＷＥＲ】スイッチをＯＮとしてリセット・スタートさせます。

・　さらに本機前面パネルの【ＰＯＷＥＲ】スイッチをＯＦＦとして、１項のバージョン確認方法によりファームウエアが更新されたことが確認出来たら底ケースを元に戻して作業完了です。

②.　ＤＳＰファームウエアの更新

・　本文１項のバージョン確認方法により、メインファームウエアの更新（もしくは最新である事を確認）が完了しましたら、続いてＤＳＰのファームウエアを更新（もしくは最新である事を確認）します。

・　ＤＳＰのファームウエアの更新作業は、メインファームウエアの作業で操作した内部スイッチの操作は不要ですのでケースを開ける必要はありません。予め用意されたＰＣ※1と、本機背面ＣＡＴ端子間を、ご用意頂いたシリアルケーブル※2で接続し、さらに本機には電源ケーブルのみ接続し、ＰＣ※1を起動します。

・　以上の準備が完了したら、本機背面の【主電源】スイッチをＯＮとし、続いて下図を参考に、【ＣＯＮＴ】、【ＤＮＲ】、【ＤＮＦ】３つのキーを押しながら前面の【ＰＯＷＥＲ】スイッチを入れます。

1: Main DSP , 2: Sub DSP

・　はじめは右上の表示が現れますので、ＤＳＰファームウエアの転送ソフト“EDSP-9000.exe”を起動し、[Update]をクリック。対象の“AH010H_VXXX拡張子 out”ファイル最新版を選択して[開く]をクリック。ＰＣ※1からの書き込みが始まると、右下のように書き込み対象側のＤＳＰが数字で現れます。（実行が正常に出来ない場合は、本説明書

巻末の“６.トラブルシュート”をご参照下さい。）

・　転送時間は、ご用意頂いたＰＣ※1の環境次第で大きく差があります。転送が開始されると、転送ソフト内にある転送状況のバーグラフがゆっくりと伸び始めますので、転送中は絶対にそれぞれの機材の電源が切れないようご注意下さい。

・　転送が完了したら本機前面の【ＰＯＷＥＲ】スイッチにより電源を切り、ＲＳ２３２Ｃケーブル※2を本機から外し、ＰＣ※1のファームウエア転送ソフトを終了させます。(※1,2 の詳細は本説明書の“５.用意するものについて”をご参照下さい。)

・　最後に本機前面パネルの[ＦＡＳＴ]キーと[ＬＯＣＫ]キーを同時に押しながら同前面パネルの【ＰＯＷＥＲ】スイッチをＯＮとしてリセット・スタートさせて完了です。

③.　ＤＭＵファームウエア（２種類※3）

ＤＭＵファームウエアのアップデートが行われた場合には別途手順を公開しますが､現段階では前述の通り本機の製造時期により２種類※3のハードウエアに対応したファームウエアのバージョンが存在します。

いずれも性能は同等で､２種類のハードそれぞれ専用のファームウエアとなっているため互換性はありません。

４.　アップデートされたバージョンに対応した取扱説明書を取得します。

アップデート作業後は、本機に対応した取扱説明書（ＰＤＦ）をダウンロードしてご確認下さい。

５.　用意するものについて

■　ファームウエア転送ソフトのセットアップ。

この手順書では、本機内にある２つのシステムにアップデートを行う必要があるため、お客様がご用意頂く、パーソナルコンピューター（ＰＣ※1）には、以下２つの転送ソフトをダウンロードしてセットアップしておきます。弊社のＷＥＢページより、それぞれのＺＩＰファイルをＰＣ※1内に適当に作ったフォルダにダウンロードします。､フォルダ内に保存したＺＩＰファイルを解凍して、展開した全ファイルを、インストールするＰＣ※1のデスクトップなどにコピーします。

①.　メインファームウエアの転送ソフトは展開したファイル中の“FSW004.exe”アイコンをクリックすると、起動します。　最新版の“AH010N_VXXX 拡張子 SFL”ファイルを転送ソフト内で選択して使用します。

②.　ＤＳＰファームウエアの転送ソフトは展開したファイル中の“EDSP-9000.exe”アイコンをクリックすると、起動します。最新版の“AH010H_VXXX 拡張子 out”ファイルを転送ソフト内で選択して使用します。

■　アップデート用に適したパーソナルコンピューター（ＰＣ※1）の条件は・・

・　ＣＯＭ（ＲＳ-２３２Ｃ）ＰＯＲＴ のある パーソナルコンピューター

・　Microsoft Windows 2000 以上のオペレーティング・システム

・　ファームウエアとその転送ソフトインストール用に３０ＭＢ以上の空き容量のあるハードディスク

・　２５６ＭＢ以上のＲＡＭ

・　１０２４×７６８の画面解像度、２５６色以上をサポートするビデオカードとディスプレイ

■　作業に適したシリアルケーブル※2は・・

使用可能なシリアルケーブル※2は、市販のＲＳ-２３２Ｃ規格で、フル結線のストレートタイプをご用意下さい。

市販品の多くは、コネクタ部のオスメスが合致しますが、まれにオスメスが逆のタイプもありますので、事前にご確認下さい。既にハムログなどで、本機との動作が確認出来ていれば、同環境で作業は可能です。

６．　トラブルシュート

■　**弊社のホームページでダウンロードできるファームウエアは圧縮（ＺＩＰ）ファイルです。**

取得したＺＩＰファイルは、解凍したに展開した全ファイルを、インストールするＰＣ※1のデスクトップなどに適当なフォルダを作り、コピーして使用します。（解凍して展開された転送ソフトのＥＸＥファイルをそのままクリックしても起動しません。）

■　**転送ソフトを起動しても、ＣＯＭ（ＲＳ-２３２Ｃ）ＰＯＲＴ を認識しない場合は・・**

接続したシリアルケーブル※2のＣＯＭ（ＲＳ-２３２Ｃ）ＰＯＲＴのＣＯＭ番号の優先順位が低い場合などでは、そのまま転送ソフトを起動しても ＣＯＭ port Error 表示が出て転送できない場合があります。その場合には、メインファームウエアの転送ソフト“FSW004.exe”では、転送ソフト画面内の［Configure］の設定により、接続したシリアルケーブル※2のＣＯＭ番号と同じ物を選択することで転送が実行されます。

同じく、ＤＳＰファームウエアの転送ソフト“EDSP-9000.exe” を起動しても ＣＯＭ port Error 表示が出て転送できない場合は、転送ソフト画面内の“COM Select”により、接続したシリアルケーブル※2のＣＯＭ番号と同じ物を選択することで転送は実行されます。

■　**ＣＯＭ（ＲＳ-２３２Ｃ）ＰＯＲＴ がないパーソナルコンピューターの利用について・・**

ノート型や、デスクトップで小型の物などでは、ＵＳＢ ＰＯＲＴ だけで、ＣＯＭ（ＲＳ-２３２Ｃ）ＰＯＲＴが無い場合がありますが、市販のＵＳＢシリアル変換ケーブルを利用する事で作業は可能です。既にハムログなどで、本機との動作が確認出来ていれば同環境で作業が可能です。

接続したＵＳＢシリアル変換ケーブルで増設したＣＯＭ（ＲＳ-２３２Ｃ）ＰＯＲＴを認識しない場合の多くは、パーソナルコンピューターのオペレーティング・システムが、ＵＳＢシリアル変換ケーブルの接続に伴い、自動的にデバイスドライバーを設定されたままの場合が多く、オペレーティング・システムのデバイスマネージャでは増設したＣＯＭ ＰＯＲＴが確認できていても、転送ソフトがそのＣＯＭ番号を認識できない場合があります。その時には自動で設定されたデバイスドライバーをオペレーティング・システムのデバイスマネージャで削除した後、接続したＵＳＢシリアル変換ケーブルを一旦外し、ケーブルメーカーのＷＥＢサイトで、使用するオペレーティング・システムに対応したＵＳＢシリアル変換ケーブルの最新のデバイスドライバーを入手してインストールした後に、改めてＵＳＢシリアル変換ケーブルを接続することで正常に認識することが報告されています。

ＰＥＰ９０００作業後の本製品は､一定の条件を満たすパーソナルコンピュータ※1と市販のシリアルケーブル※2をご用意頂ければ、お客様ご自身でファームウエアをアップデートさせることが可能となっていますが、本手順書の要領が不明なまま作業を行うと、本機が起動不能となるなど重大な不具合を引き起こしますので、本書を最後までよくお読みになり、ご自身の責任において行って下さい。アップデート作業は、お客様のご希望により、弊社でも有償で作業を承ります。

株式会社 スタンダード

アマチュア カスタマーサポート

〒153-8645 東京都目黒区中目黒４－８－８

TEL 03-5725-6151 FAX 03-3793-5726